第 40 回 木津川上流河川環境研究会 議事概要

【開催概要】

開催日時：令和 6 年 11 月 8 日（金曜日）10:00～11:30

開催場所：WEB 会議 (Zoom)

【出席者】

委員：6 名（角座長、海老瀬委員、平山委員、藤村委員、堀委員、松井委員）
欠席 2 名（竹林委員、森委員）

事務局：木津川上流河川事務所 8 名（吉田事務所長、林副所長、出口流域治水課長、中田流域調整係長、渡邊係員、岩田係員、鉈橋専門調査官、初田係員）

事務局オブザーバー：水資源機構 木津川ダム総合管理所 5 名（杉浦所長、林副所長、久保田管理課長、波多野氏、栗原氏）

水資源機構 高山ダム管理所 1 名（吉田所長）

水資源機構 布目ダム管理所 1 名（後藤所長）

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
 - (1) 第 39 回木津川上流河川環境研究会 議事概要の確認
 - (2) 各調査検討の進捗状況
 - (3) 堰・魚道 連続性再生検討について
 - ・コクチバス対策検討：今年度の調査検討の中間成果と今後の取り組み方針(案)
 - (4) 水量・水質検討について
 - ・今年度の調査検討の中間成果
 - (5) 土砂管理検討について
 - ・今年度の調査検討の中間成果と今後の取り組み方針(案)
4. 閉 会

【審議内容】

(1) 第 39 回木津川上流河川環境研究会 議事概要の確認

事務局より、前回 第 39 回河川環境研究会の議事概要について説明を行った。

(2) 各調査検討の進捗状況

事務局より、各調査検討の進捗状況について説明を行った。

(3) 堰・魚道連続性再生検討（コクチバス対策検討）について

事務局より、堰・魚道 連続性再生検討におけるコクチバス対策検討に関して、今年度の調査検討の中間成果と今後の取り組み方針(案)について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・コクチバスの個体数や産卵床の数が減少したのはよい結果である。コクチバス調査・駆除の手引きは、いつ確認できるのか。〈松井委員〉

⇒コクチバス調査・駆除の手引きは今年度中に作成予定である。案を作成でき次第、委員の先生方に内容を確認していただきたいと考えている。〈事務局〉

- ・産卵床の減少は、コクチバスの個体数の減少を反映したものと言えるのか。〈角座長〉

⇒昨年度の駆除活動によってコクチバスの個体数が減少したため、産卵床が減少したと考えている。〈事務局〉

- ・産卵床の破壊は、産卵床を見つけられないと実施できないという欠点がある。また、コクチバスの減少に伴い、産卵床が見つかりにくくなると考えられるため、フラッシュ放流や置土を利用して間接的にコクチバスを管理できるとよい。〈角座長〉

- ・人工産卵床に産みつけられた卵を駆除するという事例を見たことがあるが、コクチバスの個体数が減ってきた場合、効果的な駆除方法とはならないか。〈堀委員〉

⇒人工産卵床を設置しても、よりよい条件の箇所産卵床が作られ、効果が得られなかった事例が報告されている。また、ダム湖で人工産卵床の設置による駆除が実施されている例はあるが、流れのある河川で行われている事例はない。〈事務局〉

〈4〉水量・水質検討について

事務局より、水量・水質検討に関して、今年度の調査検討の中間成果について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・大腸菌数が 1 年中基準値を超過している地点があることは注視すべき点である。伊賀市において、対策として単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換を推進しているのであれば、浄化槽設置状況の図面では、単独浄化槽と合併処理浄化槽を区別して整理していただきたい。〈海老瀬委員〉

- ・採水地点の違いにより、処理施設の影響の有無があり、水質データが異なるということであるが、具体的に処理施設の場所や運用形態、排出する河川等について示していただきたい。〈海老瀬委員〉

⇒ご指摘の件については、情報を整理した上で報告する。〈事務局〉

- ・伊賀市内の河川は生活排水の影響を受けていると考えられる。また、柘植川では畜産排

水による影響もあると考えられる。これらを踏まえ、引き続き水質の状況を注視していただきたい。〈海老瀬委員〉

- ・木津川・服部川合流点直上にあたる伊賀上野橋(服部川)で大腸菌数が環境基準を超過しているが、合流点直下の岩倉橋では環境基準を満足している。しかし、さらに下流の島ヶ原大橋と笹瀬橋では、環境基準を超過している。岩倉橋から島ヶ原大橋の間に大腸菌数の増加要因があるのか。あるいは他に要因があるのか。〈堀委員〉
 - ・伊賀上野橋～岩倉橋～島ヶ原大橋間における大腸菌数の変化の要因として、調査地点の砂州の形状による滞筋の広がり方の違いが影響している可能性が考えられる。測定値の差が表れるような河川形状であるか、空中写真などで示していただきたい。〈海老瀬委員〉
- ⇒大腸菌数の変化の要因については、確認の上で報告する。〈事務局〉
- ・近年の温暖化の進行に伴う水温の変化が河川環境に与える影響を確認する観点から、長期的な水温変動の傾向を整理していただきたい。〈角座長〉

〈5〉土砂管理検討について

土砂管理検討に関して、事務局より今年度の調査検討の中間成果と今後の取り組み方針(案)、及び事務局オブザーバーより木津川上流ダム群における土砂管理の取り組みについて説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・土砂の堆積状況とコクチバスの産卵環境との関係についての整理が必要ではないか。〈松井委員〉
- ⇒置砂モニタリング調査における産卵状況調査では、河床材料の粒径を記録するため、コクチバスの産卵環境との関係についても整理する。〈事務局〉
- ・大河原堰堤周辺の河床変動については、一次元河床変動計算を基本としているが、これでは大河原堰堤付近の堆砂実態の検討は困難であると考えられる。今後、二次元や三次元での河床変動計算を行う必要があるかもしれない。一次元、二次元または三次元解析のそれぞれの特徴を踏まえて、組み合わせる必要がある。この件については、土砂管理ワーキングで議論することが望ましい。〈角座長〉
 - ・川への坂路がなくても、道路脇に作業場所がとれる箇所から直接川に落とせるのであれば、土砂投入箇所として活用するとよい。高山ダムでは、将来的にはストックヤードから直接右岸側から投入する方法も検討できるとよい。〈角座長〉
 - ・国立開発研究法人土木研究所では、置砂を川に運ぶ手法について研究・検討されているため、それらの成果を活用するとよい。〈角座長〉
 - ・土砂投入方法は、ホッパー等を用いゆっくり投入する方法も考えられる。また、平常時と放流時の状況を踏まえ、効果的な投入場所を検討する必要がある。〈藤村委員〉
 - ・高山ダムの掘削土砂の粒度分析結果について確認させていただきたい。〈藤村委員〉
- ⇒粒度分析を実施しているため、次回の河川環境研究会で報告する。
- ・投入土砂の追跡方法について教えていただきたい。〈藤村委員〉
 - ・少なくとも、地形変化や大河原堰堤への堆積土砂の測量については、関係機関で連携して、取り組んでいくとよい。〈角座長〉
- ⇒投入土砂の流下状況を追跡する方法については、今後、内部で検討する。〈事務局オブザーバー〉

以 上